

23PO-am045

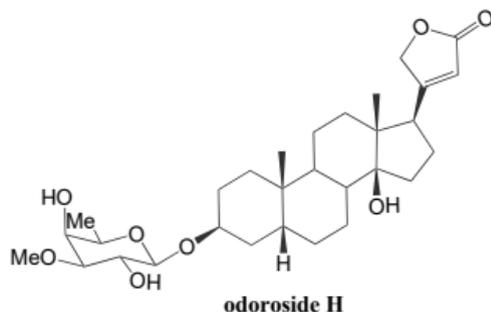
植物由来抗腫瘍活性成分の臨床応用のための探索的研究 (17) - キョウチクトウ果実について -

○佐藤 文¹, 中野 大輔¹, 石塚 賢治², 土橋 良太¹, 大川 雅史¹, 田村 和夫³, 金城 順英¹ (¹福岡大薬, ²鹿児島大医, ³福岡大医)

【目的】我々は植物由来抽出物のライブラリーの中から成人 T 細胞白血病 (Adult T-cell Leukemia : ATL) 株に対して、選択的な細胞増殖抑制効果や殺細胞効果を持つ抽出物をスクリーニングし、いくつかの有用な植物を見出している¹⁾。前回、キョウチクトウ果実について活性成分の探索研究を行い報告した²⁾。今回、引き続きキョウチクトウ果実について活性成分の探索研究を行ったので報告する。

【方法】キョウチクトウ (*Nerium oleander*) 果実から抽出により得たメタノールエキスを Hexane と 80%MeOH で溶媒間分配を行い、得られた 80%MeOH 層を Diaion HP-20 を用いて分離し、さらに Silica gel 等のカラムクロマトグラフィーを用いて化合物の単離・精製を行った。また、それら化合物の ATL 株 (MT-1, MT-2) に対する細胞増殖抑制活性を測定した。

【結果・考察】キョウチクトウより単離した化合物の各種スペクトルデータを文献と比較したところ、前報の 8 種に加え、さらに 18 種の強心配糖体及びそのアグリコン 4 種が得られた。また、細胞増殖抑制活性を測定した結果、nM オーダーの活性を示す化合物もあった。



- 1) 中野ら、日本生薬学会第 65 回年会 (広島) (2018)
- 2) 佐藤ら、日本薬学会第 137 回年会 (仙台) (2017)